

胃がん検診の流れ

1. 受診場所・受診日を選ぶ

同封の一覧表をご覧ください。

2. 電話でお申し込みください

TEL 000-0000-0000

3. 受診

自己負担金0,000円を支払い受診してください。

■ 受診内容

・問診 ・バリウムによる胃部エックス線検査

4. 結果*

約2～3週間後に自宅に郵送されます。

検査結果を確認してください。

■ 受診期間：令和〇〇年〇〇月〇〇日～
令和〇〇年〇〇月〇日まで

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

第2.0版

お問い合わせ先

〇〇市〇〇部〇〇課

〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号

電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇

早期の胃がんは、
ご自分ではまず気づきません。
見つけられるのは、
専門家だけです。

早期の胃がんは、自覚症状がないのが普通です。
あったとしても、胸やけ、吐き気、食欲不振など、
「今日はちょっと調子が悪いな」
と思うような軽いものです。
「異常を感じたら検診に行こう」では、
手遅れになる場合があります。

早期発見するためには
専門家による検診を2年に1度
定期的に受けることが大切です。



胃がん検診
2年に1度、
気になる症状がなくても、
が必要です。

〇〇市からの
0,000円の助成があるため
自己負担0,000円で
受けられます。

胃がん検診には、2つの検査方法があります。^{※1}

下記の特長をよく読んで、あなたに合った検査方法を選んでください。

①バリウムによる 胃部エックス線検査

費用：0,000 円

- * 検査時間は10分程度
- * 他の検査とまとめて受けられる
- * 飲むバリウムの量はこれだけ



②胃内視鏡による検査

費用：0,000 円

- * 検査時間は約30分~60分程度
- * 平成29年度より国の指針に追加
- * 経口内視鏡検査

先端にカメラのついた細い柔軟チューブを口から体内に挿入し、胃内部を観察する検査です。



(経鼻内視鏡検査を選べる場合があります。
詳しくは医療機関へお問い合わせください。)

※1 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

早期のがん^{※2}の段階で治療すれば、90%以上が治ります。^{※3}
検診は2年に1度、定期的に受けてください。

ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

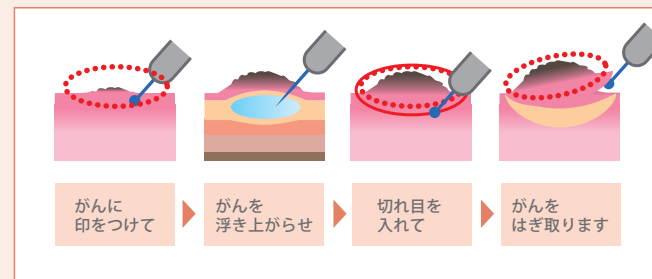
※2 ここでいう「早期」とは、がんの進行度を0~IV期に区分した病期分類(TNM分類)におけるI期を意味します。(IV期に近いほどがんが進行している状態です)

※3 ここでいう「治る」とは、診断時から5年後に生存している状態を示します。

出典：2014-2015年院内がん登録5年生存率報告におけるネット・サバイバル(純生存率)

胃がんは“なりやすい”がんですが、“治しやすい”がんでもあります。

胃がんが見つかったも、早期なら、胃を取らずに内視鏡でがん細胞だけはぎ取れます。



胃がんはわが国では50歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。^{※4}

※4 胃は、がん罹患した人が3番目に多い部位です。(2020年男女計)

出典：国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」
(全国がん登録)

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。

その場合の精密検査は、「胃部エックス線検査の精密検査は胃内視鏡検査」「胃内視鏡検査の精密検査は生検(組織の一部を採取して調べる)または、胃内視鏡検査の再検査」を行います。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス

このリーフレットは、がん検診受診率向上<希望の虹プロジェクト>が作成しました。

胃がん検診の流れ

1. 受診場所・受診日を選ぶ

同封の一覧表をご覧ください。

2. 電話でお申し込みください

TEL 000-0000-0000

3. 受診

自己負担金0,000円を支払い受診してください。

■ 受診内容

・問診 ・バリウムによる胃部エックス線検査

4. 結果*

約2～3週間後に自宅に郵送されます。

検査結果を確認してください。

■ 受診期間：令和〇〇年〇〇月〇〇日～
令和〇〇年〇〇月〇日まで

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

第2.0版

お問い合わせ先

〇〇市〇〇部〇〇課

〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号

電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇

早期の胃がんは、
ご自分ではまず気づきません。
見つけれられるのは、
専門家だけです。

早期の胃がんは、自覚症状がないのが普通です。
あったとしても、胸やけ、吐き気、食欲不振など、
「今日はちょっと調子が悪いな」
と思うような軽いものです。
「異常を感じたら検診に行こう」では、
手遅れになる場合があります。

早期発見するためには
専門家による検診を毎年
定期的に受けることが大切です。



気になる症状がなくても、
毎年、胃がん検診が
必要です。

〇〇市からの
0,000円の助成があるため
自己負担0,000円で
受けられます。

胃がん検診には、2つの検査方法があります。^{※1}

下記の特長をよく読んで、あなたに合った検査方法を選んでください。

①バリウムによる 胃部エックス線検査

費用：0,000 円

- * 検査時間は10分程度
- * 他の検査とまとめて受けられる
- * 飲むバリウムの量はこれだけ



②胃内視鏡による検査

費用：0,000 円

- * 検査時間は約30分~60分程度
- * 平成29年度より国の指針に追加
- * 経口内視鏡検査

先端にカメラのついた細い柔軟チューブを口から体内に挿入し、胃内部を観察する検査です。



(経鼻内視鏡検査を選べる場合があります。
詳しくは医療機関へお問い合わせください。)

※1 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

早期のがん^{※2}の段階で治療すれば、90%以上が治ります。^{※3}
検診は毎年、定期的に受けてください。

ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

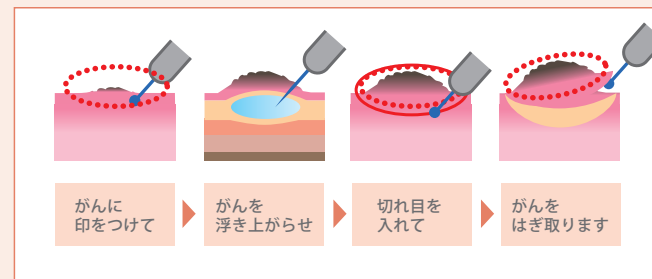
※2 ここでいう「早期」とは、がんの進行度を0~IV期に区分した病期分類(TNM分類)におけるI期を意味します。(IV期に近いほどがんが進行している状態です)

※3 ここでいう「治る」とは、診断時から5年後に生存している状態を示します。

出典：2014-2015年院内がん登録5年生存率報告におけるネット・サバイバル(純生存率)

胃がんは“なりやすい”がんですが、“治しやすい”がんでもあります。

胃がんが見つかったも、早期なら、胃を取らずに内視鏡でがん細胞だけはぎ取れます。



胃がんはわが国では50歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。^{※4}

※4 胃は、がん罹患した人が3番目に多い部位です。(2020年男女計)
出典：国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」
(全国がん登録)

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。

その場合の精密検査は、「胃部エックス線検査の精密検査は胃内視鏡検査」「胃内視鏡検査の精密検査は生検(組織の一部を採取して調べる)または、胃内視鏡検査の再検査」を行います。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス

このリーフレットは、がん検診受診率向上<希望の虹プロジェクト>が作成しました。